

屋内型オーロラビジョン“ Resolia ”

飯尾信哉*

LED Screen “ Resolia ” for Indoor Use

Shinya Iio

要 旨

ハイビジョンの普及に伴い、大型映像装置の世界における高解像・高精細化の要求は既に日常的なものとなっている。LED(Light Emitting Diode)方式では素子の高密度実装化によって、比較的小さな画面サイズでも明るく高品位なスクリーンが構成可能となっている。三菱電機では4mm 3 in 1機種を採用した屋内型オーロラビジョン“ Resolia(レゾリア)”を製品化し、2007年10月から発売を開始した。通常のオーロラビジョンとは異なり、仕様を固定化した標準製品として製造・販売することを目指している。

高精細型オーロラビジョンの高画質、高信頼を支える技術的特長として、独自の高画質化制御、高精度な構造によ

る表示部の配置、異常診断と多彩な表示制御機能が挙げられる。Resoliaではこれらの技術に加えて、“薄型化”施工の省力化“柔軟な設置形態”といったコンセプトを達成するための独自の工夫が図られた。

さらに今後の発展構成として、現状のシンプルな標準システム構成に表示配信システムを組み合わせ、1対Nのネットワーク配信にも対応させる。これによってデジタルサイネージなどの用途にも適用が可能である。証券情報表示板として納入されるなど、高精細性が求められるアプリケーションへの適用も始まっており、これまでLED方式が適用されなかった新市場への展開が期待される。



“ Resolia ”の外観

上は表示状態の写真、下はデザイン研究所で描かれたデザインパース図である。製品として2色のバリエーションを準備し、設置シーンに応じた選択が可能となっている。140型の標準化された製品とすることによって量産化を図る。薄型化、施工性の省力化、多様な設置形態への対応を行うにあたり、Resolia独自の様々な工夫が図られている。